

# 甲状腺外科草子 41

## 古文復習：秋の音

杉野 圭三

盆を過ぎると秋の気配が急速に感じられ、朝方の気温の変化に驚くことがある。

秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ 驚かれぬる (藤原敏行 古今和歌集一六九)

百人一首に選ばれて当然の誰もが知る有名な歌である。藤原定家好みではなかった？

万葉の時代、秋のテーマの主流は萩であったが、次第に紅葉へと変遷してきた。それ以外にも秋の歌は多く詠まれ、百人一首には紅葉以外では13首の秋の歌がある。

秋の田の かりほの庵の苫をあらみ わが衣手は 露に濡れつつ (天智天皇 百人一首 一)

夕されば 門田の稲葉 おとづれて 葦のまるやに 秋風ぞ吹く (大納言経信 同七一)

黄金に色づいた秋の田圃は日本人の原風景であり、郷愁をそそられる。



猪苗代湖周辺

湯来町

秋の花の中で菊の歌は多いようだが、意外に少ない。

心あてに 折らばや折らむ 初霜の 置きまどはせる 白菊の花 (凡河内躬恒 同二九)



白菊

吹くからに 秋の草木の しほるれば むべ山風を あらしといふらむ (文屋康秀 同二二)

契りおきし させもが露を 命にて あはれ今年の 秋もいぬめり (藤原基俊 同七五)

白露に 風の吹きしく 秋の野は つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける (文屋朝康 同三七)



富士五湖



永観堂

月見れば 千々に物こそかなしけれ わが身ひとつの 秋にはあらねど (大江千里 同二三)

秋風に たなびく雲の たえ間より 漏れ出づる月の影のさやけさ (左京大夫顕輔 同七九)



秋の雲間の月



奥入瀬溪流

秋の月の風情は心に響くものがあるが撮影の機会を得るのは難しく大変である！



裏磐梯



五日市湊

村雨の 露もまだ干ぬ まきの葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ (寂蓮 百人一首八七)

他にも秋の歌は多く、キリがないが「三夕の歌」は庶民にも親しまれたものである。

寂しさは その色としも なかりけり 真木立つ山の 秋の夕暮れ (寂蓮 新古今和歌集三六一)

心なき 身にもあはれは 知られけり 鳴たつ沢の 秋の夕暮れ (西行 同三六二)

見渡せば花も紅葉もなかりけり 浦の苫屋の 秋の夕暮れ (藤原定家、同三六三)

個人的には高校時代に感銘を受けた西行法師の歌への思い入れが深い。

### 参考文献

百人一首. 古今和歌集、新古今和歌集、ビギナーズクラシックス. 角川ソフィア文庫

( 一甲状腺外科医の徒然なる随想 )

2022年8月25日